

平成27年度 「スラブ・ユーラシア地域（旧ソ連・東欧）を中心とした総合的研究」に関わる「プロジェクト型」の共同研究 研究報告書 平成28年4月27日現在

研究課題名	ロシアにおける出版資本主義と帝国秩序との相互補完性に関する研究				
申請者 (代表者)	氏名		所属機関・職		
	巽 由樹子		東京外国語大学 大学院総合国際学研究院・講師		
研究構成員		氏名	所属機関・職	専門分野	役割分担
	1	鶴見 太郎	東京大学 大学院総合文化研究科 准教授	ロシア語圏のユダヤ・ナショナリズム	ロシア内外のシオニスト・メディアとナショナリズムの関係の分析
	2	長縄 宣博	北海道大学 スラブ・ユーラシア研究センター・准教授	ロシア帝国の宗派政策とムスリム公共圏	ヴォルガ・ウラル地域のマス・メディアとムスリム公共圏の関係の分析
	3	高橋 一彦	神戸市外国語大学 外国語学部・准教授	近代法史	ロシア帝国の出版法制の分析

研究成果の概要

本研究課題は、B. アンダーソンの出版資本主義論によってナショナリズムと結びつけられる傾向のある近代出版メディアが、ロシアにおいてはむしろそうした一国主義的な性格よりも、多元主義的な帝国の編制秩序を強化する役割を果たしたのではないか、という問題意識から始まった。2015年度、研究グループは夏と冬に集まる機会を持ち、この課題の考察を深め、作業を進捗させることができた。

まず夏季には、8月2日に、埼玉大学東京ステーションカレッジで第1回研究会を実施し、ロシア帝国の出版法と製紙業についての一次史料2点を講読して、近代ロシアの出版環境についての理解を共有した。また、神田外語大学を会場として開催された ICCEES（国際中欧・東欧研究協議会）大会では、8月5日に"Print Capitalism in the Russian Empire and Beyond: Making Public Sphere Imperial, National, and Transnational"と題したパネルで、巽、鶴見と Melissa Stockdale 氏（オクラホマ大学）が報告を、長縄、Marsha Siefert 氏（中央ヨーロッパ大学）がコメントをして、研究課題について時期、地域の幅を持ちつつ議論を深めた。

冬季には、2月29日に東京外国語大学本郷サテライトで第2回研究会を実施した。悪天候により、札幌からの参加者が出席できなかったのは残念だったが、高橋が Beth Holmgren, *Rewriting Capitalism: Literature and the Market in Late Tsarist Russia and the Kingdom of Poland* (1998) という、近代ロシアおよびポーランドの出版文化の比較研究を詳しく紹介し、参加者が出版メディアのトランスナショナルな特質を理解するのを可能にした。また、本研究課題による論文集の刊行を目指すことで合意し、「出版資本主義」という概念の整理を含め、枠組みについて基礎的な部分を詰める作業を行った。なお、夏冬を通じて、上記の研究校正委員以外にもプロジェクトへの参加者を順次増やし、議論の射程を対象とする時期、地域の双方で拡大することができた。

主な発表論文等（雑誌論文、学会発表、図書 等）

【論文】

Yukiko Tatsumi, “Russian Critics and *Obshchestvennost'*, 1840—1890: The Case of Vladimir Stasov,” Yasuhiro Matsui (ed.), *Obshchestvennost' and Civic Agency in Late Imperial and Soviet Russia: Interface between State and Society*, London: Palgrave Macmillan, 2015, pp.16-33.

巽由樹子「帝政末期ロシアの官僚と出版」池田嘉郎・草野佳矢子編『国制史は躍動する：ヨーロッパとロシアの対話』刀水書房、2015年、188-208頁。

Taro Tsurumi, “Jewish Liberal, Russian Conservative: Daniel Pasmanik between Zionism and the Anti-Bolshevik White Movement,” *Jewish Social Studies* 21(1), 2015, pp.151-180.

鶴見太郎「ロシア・シオニズムの亡命」『ユダヤ・イスラエル研究』29、2015年、44-53頁。

Norihiro Naganawa, “A Civil Society in a Confessional State? Muslim Philanthropy in the Volga-Urals Region,” in *Russia's Home Front, 1914-1922, Book 2: The Experience of War and Revolution*, 2016, pp. 59-78.

山根聡、長縄宣博編『越境者たちのユーラシア（シリーズ・ユーラシア地域大国論5）』ミネルヴァ書房、2015、233頁。

【学会発表】

Yukiko Tatsumi, “Popular Science and Late Imperial Russian History,” Summer University “Cities and Science: Urban History and the History of Science in the Study of Early Modern and Modern Europe,” 2015年6月30日、Central European University.

Yukiko Tatsumi, “Non-Russian Publishers and Russian press in the Russian Empire,” ICCEES IX World Congress, 2015年8月5日、神田外国語大学。

Taro Tsurumi, “Russian Jews after the Imperial Collapse, East and West” スラブ・ユーラシア研究センター夏期シンポジウム、2015年7月30日、北海道大学。

Taro Tsurumi, “Jewish Nationalism in the Russian Language,” ICCEES IX World Congress, 2015年8月5日、神田外国語大学。

Norihiro Naganawa, “Russia's Place in Global Muslim Connections, ca. 1800-1930: Sufism, Nationalism, and Anti-Imperialism,” スラブ・ユーラシア研究センター夏期シンポジウム、2015年7月30日、北海道大学。

長縄宣博「宗教行政と公共圏：ヴォルガ・ウラル地域のムスリムの銃後」ロシア史研究会大会、共通論題、2015年10月11日、早稲田大学。

当該研究活動を基に応募中の研究プロジェクト（科研費等）

ICCEES での本研究グループのパネル企画にイギリスの出版社が関心を示したため、その勧めにより、4月中に論文集のプロポーザルを提出すべく準備を進めている。今後、資金調達などで困難も予想されるが、本研究課題を口頭報告のみで終わらせず、活字化された成果に至らせることができるよう努力したい。この助成を受けたことによって国外から研究者を招聘し、さらに、国内の研究者数名にも出張費を提供できたことは、本研究課題に関連する多様なトピックの専門家との議論を可能にし、論文集の計画を具体化することにつながった。助成をいただいたことに深く感謝したい。

※枠を調整することは構いませんが、ページは追加しないでください。